

# 中小零細規模事業場集団への リスクアセスメント研修等実施経費

# 事業全体の背景と概要

職場に存在する多様な危険有害要因について、個別規制による災害防止には限界がある

## 事業のねらい

事業者による自主対応型の災害防止対策を推進



特に、災害発生状況で大規模事業場と大きな格差があり、経営資源や人的資源、情報が限られがちな中小事業場での対応を促進

## 事業の方針

中小事業場の状況を踏まえ、

- ①事業場に潜む危険要因を特定し、②それによるリスクの見積もりをした上で、③緊急性や実現性を検討し優先順位を付けて対策に取り組むリスクアセスメントを普及する
- リスクアセスメントや対策、安全教育、意識啓発などにすぐ使える情報、他社の事例などを提供する

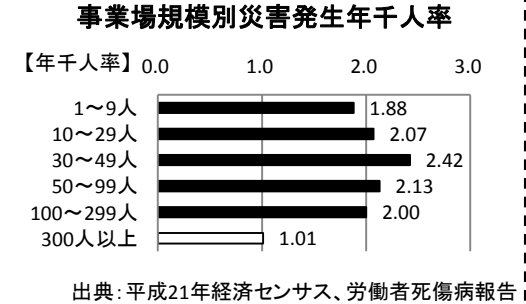
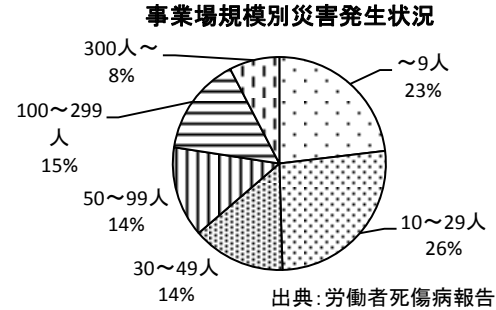
中小事業場が鍵

第12次労働災害防止計画(H25~29年度)の目標:

労働災害の15%(1.8万件)以上削減

## 労働災害の現状

中小事業場が全体の約9割を占め、災害発生率も大規模事業場の2倍以上



## 事業全体の概要

### 1 中小事業場へのリスクアセスメント研修

→リスクアセスメント導入の優先度が高い業種から、リスクアセスメントを実施できる人材の育成

### 2 中小事業場の機械災害防止対策

→メーカーとユーザーの双方に対し、機械類の潜在的な危険性を理解し、その除去や低減措置を実施する人材の育成  
→具体的対策例の提供

### 3 職場の安全対策の周知・啓発事業

→自主的対応を進めている事業場の参画を得て、対策や活動の実例を業種や企業を超えての共有化  
→リスクアセスメントの実施や安全教育に直ちに利用できるよう、行政の持つ情報(災害データベース、災害事例、災害統計、化学物質情報など)の提供

# リスクアセスメントとは・・・

## リスクアセスメントとは・・・

職場に潜む危険要因を作業場面ごとに洗い出し、優先順位を付けて災害予防を進めるツール。  
単に法令遵守だけでは防ぎきれない危険要因を意識的に洗い出させ、自主的な対策を促す

## リスクアセスメントの手順

危険要因の特定

リスクの見積もり

優先度の高い対策の決定

(製品組立作業の例)

(リスクの見積もり方)

可能性

	III	II	I	
III	III	III	II	リスク
II	III	II	I	
I	II	II	I	

(許容できないリスクへの対策)

- ・吊り荷の重量表示
- ・作業開始前の安全教育の実施
- ・ワイヤロープ点検制度

- ・覆いの設置
- ・作業開始前の安全教育の実施

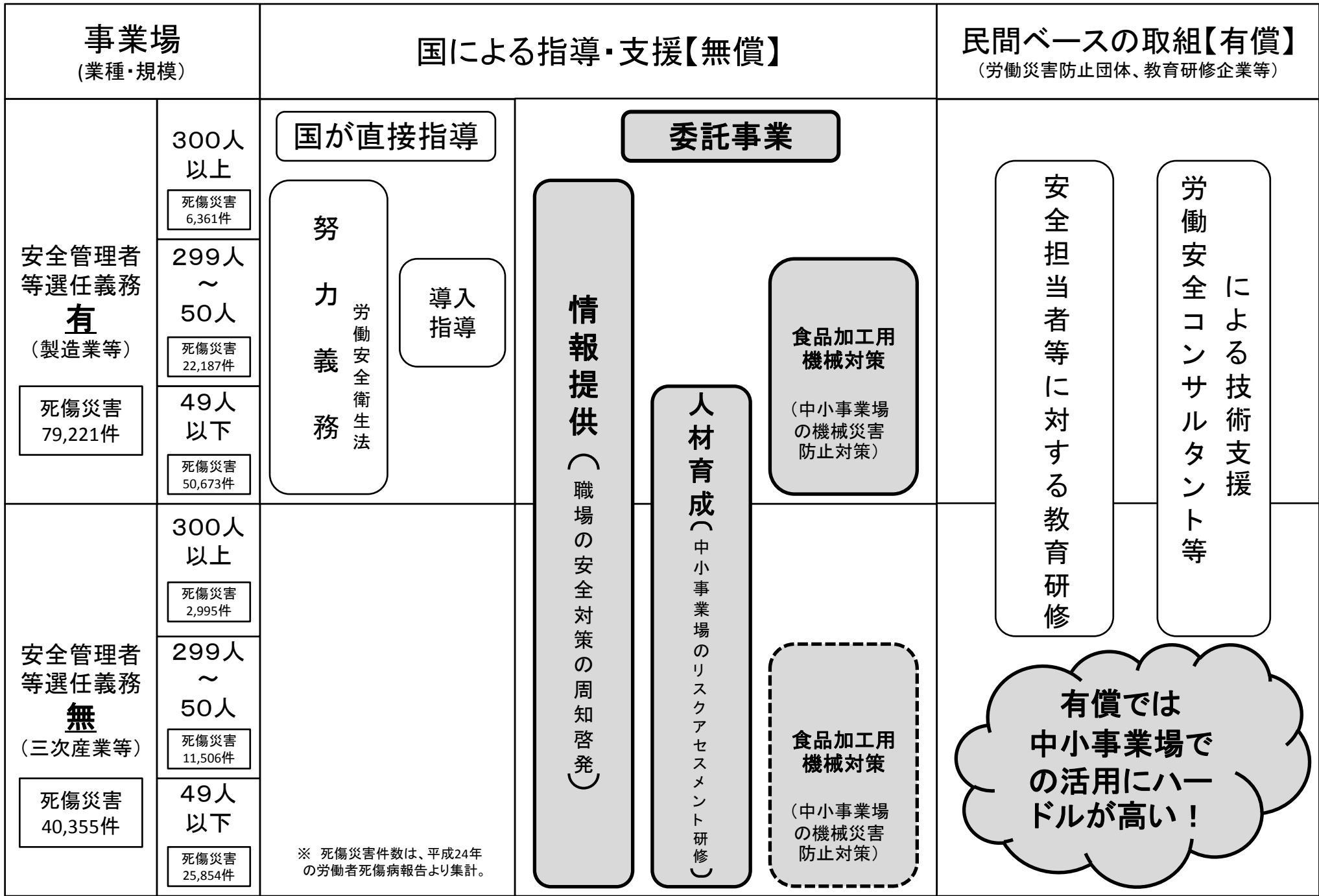
(作業順)

	想定される危険	現在の対策	想定される災害の程度		リスク
			重大性	可能性	
準備作業	クレーン操作中、ワイヤロープが切断	・重量のチェック ・クレーンの事前チェック	III 重度	III 高	III 要対策
	クレーン操作ミスで荷振れで、共同作業者が負傷	・吊り荷に近寄らない ・安全教育	III 重度	I 低	II 残留リスクを伝達
組立作業	部品取付時に指を挟む	・部品重量の確認 ・作業位置、姿勢の相互注意	II 中度	II 中	II 残留リスクを伝達
	熱処理加工中の火傷	・耐熱性手袋の着用 ・安全教育	II 中度	I 低	I 残留リスクを伝達
試運転作業	可動部、回転体に巻き込まれて負傷	安全教育	III 重度	III 高	III 要対策

## リスクアセスメントの効果

- ① 職場のリスクが明確になる
- ② 職場のリスクに対する認識を管理者を含め、職場全体で共有できる
- ③ 安全対策の優先順位を決めることができる
- ④ 残留リスクについて「守るべき決め事」の理由が明確になる
- ⑤ 職場全員が参加することにより「危険」への察知力が高まる

# リスクアセスメントの普及対策の全体像

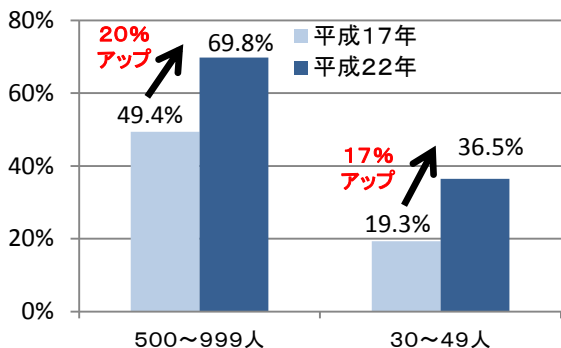


# 1. 中小事業場へのリスクアセスメント研修

## 事業の背景

- 中小事業場でのリスクアセスメントの導入は、国の支援により改善しているが、実施率は3~4割に留まる
- 労働災害の一層の低減のために、中小事業場でのリスクアセスメントの実施が鍵を握っており、更なる普及定着の推進が必要
- しかし、中小事業場にはリスクアセスメントを実施できる人材が少なく、更なる普及にはその育成が必要

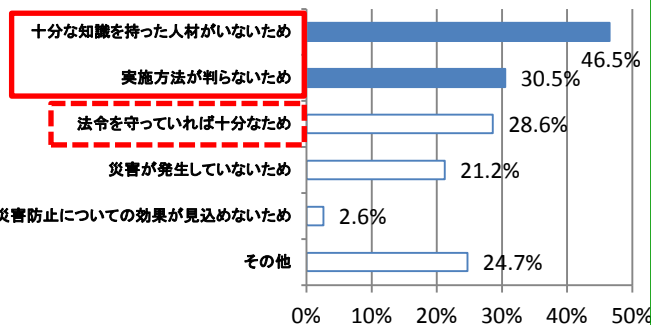
リスクアセスメントに取り組む事業場の割合



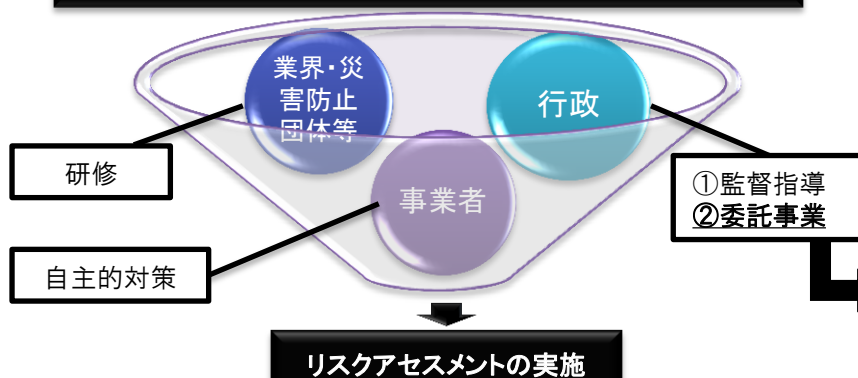
(平成22年労働安全衛生基本調査(厚生労働省) ※ 複数回答)

リスクアセスメントを実施していない理由別事業所割合 (事業所規模30~49人)

リスクアセスメントを実施していない事業場のうち4割強が「人材がいない」、3割強が「実施方法がわからない」



## (リスクアセスメントの実施率の改善に向けた取組)



## 事業の計画

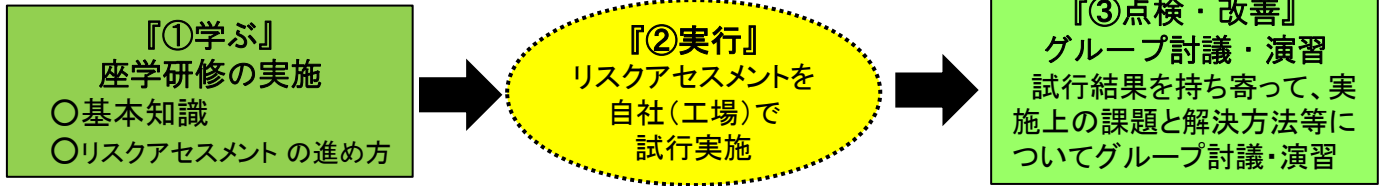
- 計画期間23年度~26年度
- 50人未満の中小事業場が多数を占める工業団地等の事業場集団 (当初、全国1,200工業団地を想定)
- 災害が多発している木材木製品製造業、一般機械器具製造業、金属製品製造業、食料品製造業を重点

災害発生状況を踏まえ、必要に応じ、新たな業種を選定。

## 事業の概要

研修対象：  
50人未満の中小事業場の安全担当者

【研修のポイント】同一事業場に対し『①学ぶ』→『②実行』→『③点検・改善』のプロセスで、リスクアセスメントの手法を効果的に習得させ、無理のない定着を目指す！



## 事業の実績(25年度)

- ・ 全国で63集団(※)に対し研修を実施 (※)50人未満の中小事業場が多数を占める工業団地や協議会組織等の事業場集団
- ・ 受講者数 2,090名 (目標: 延べ1,500名) (座学研修1,109名、グループ討議・演習981名)
- ・ 座学研修、グループ討議・演習とも97.6%の受講者が「参考になった」、「大変参考になった」と評価 (参加者の声)
  - ・ 「危険箇所へのアンテナが高くなるだけでなく、対策まで導けるようになった」
  - ・ 「同業者との意見交換が刺激になった」など

## 労働安全衛生マネジメントシステムの導入(25年度限り)

- (事業の概要)  
中小事業場向けに労働安全衛生マネジメントシステムの導入方法をわかりやすく示したマニュアルを作成し、全国7箇所で開催した研修会を実施
- (事業の実績)
- ・ 受講者数 153名 (既にリスクアセスメントを導入している事業場の安全担当者)
  - ・ 資料の内容(98.6%)、研修会の内容(97.9%)ともに受講者が「参考になった」、「大変参考になった」と評価
- ※ 「労働安全衛生マネジメントシステム」とは・・・  
リスクアセスメントを機能させ、組織レベルでPDCAを回しながら安全衛生を改善する仕組み

# 2. 中小事業場の機械災害対策（メーカーとユーザー双方の人材育成）

## 1. リスクアセスメント(RA)手法を用いた機械安全対策の概要

メーカー

- RAの実施
  - 安全対策
- 機械自体の安全に係るもの

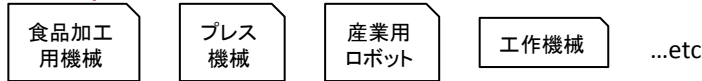
危険情報の提供

ユーザー

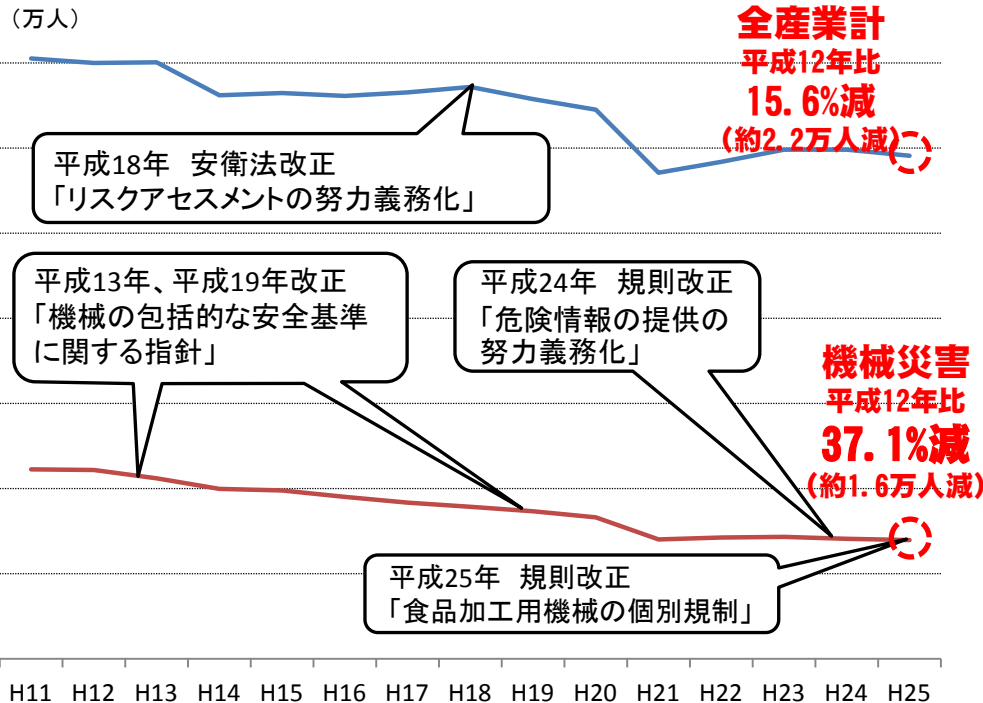
- RAの実施
  - 安全対策
- 事業場の作業に適合したもの

機械の使用現場の安全確保を達成

個別の機械へリスクアセスメント手法を適用



## 2. 機械のリスクアセスメント手法の制度化と災害動向



## 3. 食品加工用機械による災害防止のための研修会 (25年度限り)

### 事業の背景

- ◆ 食品加工用機械を個別規制対象へ追加(25年度)
- ◆ 使用中の機械に対しても危険箇所への覆いの設置など安全対策の実施が必要
- ◆ 特にスーパーや飲食店など、機械の安全対策に不慣れな中小事業場に対する支援が喫緊の課題

### 事業概要及び実績

(事業内容) 食品加工用機械による災害防止のための研修会

(研修内容)

- ・食品機械の特性に応じたリスクアセスメント及びリスク低減策
- ・食品機械の危険箇所への安全対策の具体例(新規性への対応)

(事業実績)

- ・全国で15回実施、受講者数1,181名
- ・90%以上の割合で研修会が有益であったとの評価
- ・要望が強く、研修会を追加開催  
(参加者の声)「規則改正の内容などを理解でき自社でストレスなく実施できた」「リスクアセスメントの理解が深まり、実施精度が高まった」

(評価指標)

- ・食品加工用機械の取扱事業場の災害の増減(研修前後)  
H24: 1,902人 → H25: 1,852人

## 4. 今後の課題と事業の見直し案

【現状と課題】

- 機械のリスクアセスメント人材育成事業の中小事業場への展開は引き続き必要
- 機械の種類ごとの人材育成事業は効率面で課題あり

【見直し案】

- 中小事業場が自らリスクアセスメントを実施するためのツールの開発が必要
  - ① リスクアセスメントを実施する際に参照するJISや国際規格を機械ごとに整理した手引き
  - ② メーカーが機械を譲渡する際に添付する技術ファイル及び適合宣言書の作成手引き



# 3. 職場の安全対策の周知・意識啓発事業（1）

## 事業の背景

- 情報の入手や資料の整備に人手を割くことが難しい中小事業場で、リスクアセスメントや安全教育、従業員の意識啓発、対策の実施といった災害防止活動を進めていくためにはすぐ使える資料が欲しい、具体例が欲しい、という強い要望に応え、事業場の負担感を軽減することが重要
- その際、国が事業場間の使いたい情報の共有促進機能を果たすことが効果的
- 災害防止のキーマンは第一線のリーダーである職長であり、長い現場経験で安全に対するノウハウや技能を有する「職長」の地位向上を図るとともに、視覚だけでない危険体感を通じて労働災害を再認識し、安全意識の向上を目指すことも重要

## 事業の概要

「職場のあんぜんサイト」で、自主的対策に必要な情報を提供

[リスクアセスメントや安全教育に有益な行政の持つ情報の提供]  
災害統計、災害データベース、災害・ヒヤリハット事例、化学物質情報、  
リスクアセスメント実施支援ツール など

[自主的対応を進めている事業場の参画を得て、対策や活動の実例を業種や企業を超えて共有化]

- 工夫を凝らした安全対策事例を募り、他の事業場に展開する  
⇒「見える安全活動コンクール」の実施
- 安全に取り組む事業場の評価を底上げし、安全意識を高める  
⇒「安全プロジェクト」の実施

- 安全に対するノウハウや技能を有する職長の地位の向上
- 視覚だけでない危険体感を通じた安全意識の向上  
⇒「安全シンポジウム」の開催

**中小事業場が経営資源や  
人的資源に見合った安全  
対策を先ず実施！**

(本事業で期待される効果)

- ・リスクアセスメントの実施に必要な情報の提供
- ・安全に対するノウハウを事業場・産業の枠を超えて共有、活用
- ・職長による安全のノウハウや技能の活用、次世代への伝承
- ・危険体感による安全意識の向上 等

# 3. 職場の安全対策の周知・意識啓発事業（2）

## 事業の実績：職場のあんぜんサイト

中小事業場は、情報の入手や事業場間の共有が不十分  
アクセスが容易な、ホームページによる簡便、  
タイムリーな情報提供ニーズへの対応

### 1 リスクアセスメントや安全対策に必要な情報を提供(25年度実績)

- ①労働災害統計(新規(毎月の速報値)、昭和63年以降の全データ)
- ②死亡災害データベース(新規1,093件、累計約3.6万件)
- ③死傷災害データベース(新規32,532件、累計約15万件)
- ④災害事例(新規39件、累計2,403件)、⑤ヒヤリハット事例(累計298件)
- ⑥化学物質情報(新規944物質 累計23,145物質)(強変異原性:新規48物質 累計932物質)
- ⑦リスクアセスメント実施支援ツール(31種類)

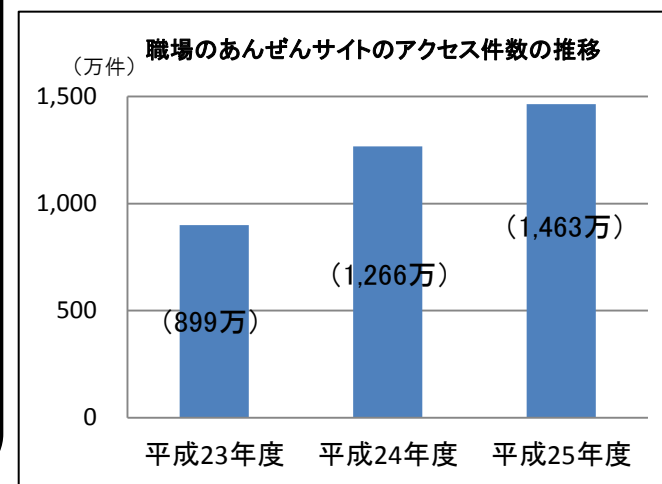
### 2 安全意識の向上に向けた取組

- ①「見える安全活動コンクール」(新規37作品、累計97作品)  
危険認識や注意喚起をわかりやすく周知できる「見える化」について取組事例を募集し、優良事例をホームページで公表
- ②あんぜんプロジェクト  
安全活動に積極的な事業場を募集し、安全活動や労働災害の状況をホームページで公表

### 3. 掲載情報への利用者の声

- ・約85%の利用者が掲載情報を有用である旨評価(利用者からの要望)
- ・「同業者の災害対策手法の例をもっと充実して欲しい」
- ・「イメージ付きの災害事例が社内教育に有益」など

(職場のあんぜんサイトのイメージ)



## 事業の実績：安全シンポジウム

### ○「安全」をテーマとしたシンポジウムの開催

- 全国の優秀な「職長」の顕彰式に合わせて、実際に体感して危険感受性を高める安全シンポジウムを開催(約300名)
- ・有識者による安全講話
  - ・「危険体感コーナー」による危険や安全器具への理解の促進
- 例) ローラーに巻き込まれたときの衝撃力、墜落したときの安全帯の効果、電源露出部に触れたときの感電等



## 4. 現状と課題

- 最低基準である労働安全衛生法令に頼らない、事業者による自主対応型の労働災害防止対策の実施が、我が国においてごく普通の姿になることを目指している。
- このため、本事業においては、労働災害のリスクを低減する合理的手法として国際的に活用が進んでいるリスクアセスメントの普及に取り組み、特に中小企業における実施率を大幅に向上させることを狙いとしている。
- 予算や行政体制の制約がある中で、膨大な数の中小事業場にリスクアセスメントの実施を定着させるには、人材育成や情報提供を効率的に実施することが課題になっている。
- 将来的な課題としては、すべての事業者に労働災害防止対策実施の基本としてリスクアセスメントに取り組んでもらう制度への見直しにつなげることを視野に入れている。
- また、第3次産業の多くの業種では、安全管理者や安全衛生推進者といった安全の担当者の選任義務はないが、このような業種における選任の拡大について制度の見直しを検討することも課題になっている。